

令和6年度 社会福祉法人 進和学園 事業計画

引き続き世界情勢は混沌の中にあります。物価高騰の要因の一つである温暖化対策の環境問題、エネルギー問題は深刻であり、さらに世界の秩序を乱し分断を引き起こしているウクライナ侵攻、ガザ地区の戦闘は世界平和の脅威となっており、一日も早い終結を願います。新型コロナウイルス感染症は昨年5月より5類移行となりましたが、季節性インフルエンザとともに感染が発生している状況もあり、今後も気を緩めず対応してまいります。また本年元日に発生した令和6年能登半島地震には、自然災害の恐ろしさを改めて認識させられました。万が一の災害発生時には、進和学園各施設は、障がいのある方の受入協定施設としての機能を果たせるように防災、減災の活動を推進してまいります。

令和6年度は3年ごとに実施される障害福祉サービス等報酬改定があり、その内容が本年2月に示されました。利用者ご本人の意思決定支援、障害者支援施設の地域移行への取組み、定員・時間・人員配置に係る基準の見直し、就労支援の成果主義の明確化、相談支援、発達支援、福祉・介護職員処遇改善の改定など、多岐にわたる視点で改定されています。

この流れは、国際連合の障害者権利条約の勧告が反映されているものと思われませんが、神奈川県が令和5年度より施行した「当事者目線の障害福祉推進条例」と県市の障がい福祉計画も、障がいのある方が、自分の望む暮らし、日中活動、仕事等を地域の中で出来ることを目指すことで一致しています。しかし、その実現に向けてはハード面、ソフト面、予算措置等の課題があることと、地域社会の障がい福祉に対する理解の醸成が必要です。よって、それを実現するためには利用者ご本人のライフサイクルにおいて必要な時期に、必要な支援を受けられるようなセーフティーネット体制のサービスを整備し、ご本人の意思決定支援のもと、選び直しが出来る循環型サービスを地域の中で構築することが基本と考えます。

今後は利用者ご本人の高齢化、重度化が進みます。その対応のために入所施設・グループホーム並びに日中活動支援事業所のサービス体系のさらなる推進を図ります。相談支援機能をサンシティに集約して強化を図り、入所施設は引き続き短期入所等の機能を充実して地域生活支援拠点を担い、グループホームは支援体制の多様化を図ります。権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に各施設で引き続き取り組んでまいります。

保育園部門は、いずみ・富士見・しらゆりの3園と、地域子育て支援拠点事業「どれみ」が連携を図り、地域の期待、保護者のニーズに応えるべく子育て支援の推進に市行政と連携して努めてまいります。

放課後等デイサービス部門と学童保育部門については市行政、学校と連携するとともに子育て・療育・家族支援に取組み、法人各部門と協力して放課後、長期休み期間の保育の推進に努めてまいります。また地域の子どものたちの表面化しにくい課題（生活困窮、ヤングケアラー、虐待等）の発見、解決に向けて、「こどもスペース∞（無限大）」を拠点に相談機能を駆使してアウトリーチで推進します。

人材の確保、定着、育成については、社会的にも全産業で大きな課題となっております。特に新卒採用は年々厳しさを増しています。中途採用も含めて広くアンテナをはり、障がい、保育、学童の各部門の連携で進めます。法制度の処遇改善加算等を活用し、福祉の仕事が「やりのある魅力ある職場」であるという発信に努め推進してまいります。

進和学園は地域・社会に支えられ66年目を迎えます。本年度も「本人中心」の理念を徹底尊重し、利用者ご本人、子どもたちの幸せとご家族の安心のために職員一丸となって取り組むとともに、地域の社会資源として「福祉のまちづくり」「防災」について貢献し、「ともに生きる」社会の実現を目指してまいります。

《重点的に取り組む課題》

1 進和学園の中長期計画の作成について

①利用者ご本人のライフサイクルの中で変化していく必要な支援を切れ目なく支えるためには、セー

フティーネットとなる循環型・横断型サービスが重要になります。そのサービス体系を法人内ネットワークで構築し、関係専門機関等との連携をもって推進する中長期計画を策定します。特に国際連合の障害者権利条約や国県市の障がい福祉計画、令和 6 年度報酬改定の方向性や動向を見極めながら、利用者ご本人の真のニーズに叶う中長期計画の策定を進めてまいります。

- ②万田・高根地区の総合的な再整備については、土砂災害警戒区域で急傾斜地の下にある「しんわやえくぼ」の安全対策、進和やましろホーム（築 38 年）及び進和あさひホーム（築 33 年）の老朽化対策をふまえて中長期計画の中で慎重に進めてまいります。

2 福祉人材の確保・定着・育成について

人材確保に関しては、ますます厳しい状況が続き、経営に深刻な影響を及ぼしています。新卒者の採用においては、採用人事サポートチームが主導し、わかりやすい求人情報の提供、魅力的な面接の実施、そして勤務開始後までのサポート体制に重点を置きます。さらに、入社後のフォローアップ体制も強化します。保育人材の不足に対処するためには、障がい部門と保育部門が連携し、情報共有を行い、養成校への訪問や実習生の受け入れ、インターンシッププログラムの積極的な推進などを行います。人材育成に関しては、職員養成委員会や人材育成・人事評価制度委員会、人権・虐待防止委員会などが中心となり、階層的な研修プログラムを推進し、さらなる充実を図っていきます。

3 地域の困りごとの発見、解決に向けた相談体制と公益的な取組について

- ①少子高齢化、人口減少社会を迎えて地域の支え手が減り、人々のつながりが希薄になりつつあります。さらに格差社会、生活困窮、ヤングケアラーなど生活の中で直面する困難、生きづらさは多様化、複雑化しています。令和 5 年度より始めた放課後等デイサービス部門と学童保育部門が中心となり取組む平塚市支援対象児童等見守り強化事業（居場所型）「こどもスペース∞（無限大）」と、しんわルネッサンスが認定された生活困窮者自立支援法で規定される「認定就労訓練事業」を通して、地域の隠れた課題、困りごとの発見、相談、解決に取り組めます。推進に当たり市町村の支援機関、地域の関係者と連携してまいります。
- ②公益的な取組については、在宅障がい者に対する生活支援、平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布、湘南平あじさい管理、地域子どもたちの陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力、子ども食堂への協力等に取組んでいます。

4 製パン作業について

令和 6 年度よりしんわルネッサンスの製パン作業がスタートします。サンメッセしんわ、しんわルネッサンスの製パン作業はサンメッセしんわを窓口としたブランドのキャラクターを活かした考えを基本にします。サンメッセしんわは今までの実績を基にオリジナルな商品開発で各地イベントに積極的に出店することを目指します。またしんわルネッサンスはサンメッセしんわの発展的な発想で「湘南みかんぱん」等のインターネット販売や食品加工との連携による商品開発をおこなっていきます。今後は学校給食や企業等からの受注作業をおこない販路拡大による増産体制を目指します。製パン作業全体で年間 4,000 万円の売り上げを目標にします。

5 相談支援事業について

令和 6 年 1 月より平塚市障がい福祉課に基幹相談支援センターが開設されました。サンシティは平塚市より知的障がい者の相談支援の業務委託を受けているため、基幹相談支援センターと連携しながら平塚市地域生活支援拠点の登録事業所としても相談支援事業を推進します。さらにビーライトしんわの障害児相談支援事業をサンシティに集約。より一層相談支援の専門性を高めてまいります。

相談業務においては年々発達障がいや家族支援が必要な場合等難しいケースが増えています。特に 8050 問題にて介護事業所や市役所と連携しての引きこもりのケースが目立ってきました。一般相談およびサービス等利用計画作成のもと相談支援を行ってまいります。また神奈川県が推進する意思決定

支援を行う各施設の要請に相談として参加、協力、推進してまいります。

サンシティにおける就労支援である障がい者就業・生活支援センター事業は、湘南西部圏域（平塚、伊勢原、秦野、大磯、二宮）の広域事業であり、地域の就労支援の中核として活動を行っています。登録者が年々増え続けており現在約 850 人と非常に多くの方から必要とされています。新規就労や就労した後の定着支援のニーズが非常に高まっており、特に精神障がい、発達障がいのある方の相談が非常に増えています。

企業からの雇入れ相談も増えており、地域の企業からも必要とされています。さらに令和6年4月より企業の法定雇用率の引き上げにより、一層障がい者の一般企業への就労の促進が予想されます。各関係機関（企業、労働行政、福祉サービス、教育）との連携の上、地域の障がい者就労支援の基幹としての役割を担い、障がい者雇用促進を図り、多くの方々の支援に努めます。

《重点目標 管理運営面》

1 人材育成の推進について

人材育成・定着は人材育成・人事考課制度委員会が階層別研修と各施設でのスーパーバイザー方式を推し進めます。またキャリアアップ研修、国家資格取得奨励、職員ガイドラインの見直しを職員養成委員会でおこないます。さらに職員の資質向上に資するための外部研修等の参加を職員の希望もくみ取って推進します。人権・虐待防止委員会及び職員養成委員会協調による人権擁護に係る研修も、引き続き推進してまいります。

2 人事考課制度の確立について

人事考課制度は職務遂行・貢献度に応じた自己評価・施設評価・法人評価を給与面・昇給等に反映して8年目になります。階層、職域に応じた評価軸の設定や、管理職が一時考課及び二次考課を担当することも6年目となります。今後とも各職員の意見を聞き入れ人材育成・人事考課制度委員会を中心に時代に即した内容の検討を推進してまいります。

3 運営システムやITの活用等について

時間の短縮や人材不足の解消に役立つ会議等のオンライン化を幅広く推進・定着させていきます。遠隔地からの会議参加など、限られたテレワークの導入も検討し、柔軟な働き方の促進を図ります。また各職員のスキルアップにも注力し、オンラインツールやデジタル技術の活用方法を向上させ、業務効率の向上やSDGsへの貢献、経費節減を図ります。職員からのフィードバックを収集し、改善点や課題を解決するための取り組みを積極的に行います。

オンライン化とデジタル化を中心に、柔軟性のある働き方やスキルの向上を重視し、持続可能な成長を目指します。

《重点目標 施設運営面》

1 保育園部門の運営について

2023年1月23日に厚生労働省より使用済みおむつは保育施設側が処分をおこなうことを推奨する「保育所等における使用済みおむつの処分について」が発表されました。そして、平塚市では2023年10月より「手ぶら登園」を促進するため、市内の保育所等において使用済み紙おむつを持ち帰りせずに園で処分出来るよう保育所等への支援が始まり、当園（いずみ・富士見・しらゆり）は、2024年4月より同事業を開始します。

また、新型コロナウイルス感染症が2023年5月8日に「5類感染症」に移行し色々な面で緩和されたことにより、コロナ禍には少なかった感染症（インフルエンザや溶連菌など）が慢性的にみられることから、引き続き日常的な衛生管理を働きかけ園内の感染予防に努めます。

保育活動については、引き続き保育所内外での活動をより充実出来る様に、各園と情報の共有を図ると共に、保育の質を高められる様に取り組めます。

2 放課後等デイサービスの推進について

「ビーライトしんわ」と「しんわブライト」の2事業所で放課後等デイサービス事業を運営します。他事業所での受け入れがむずかしい重度の障がいを持つ中高生を対象とした放課後支援と、社会的な認知がますます浸透し支援ニーズが高まる一方の発達障がい児を対象とした進和学園独自のグループ活動をベースにした総合的発達支援プログラムの提供で地域に貢献します。

2012年には9カ所であった市内の放課後等デイサービス事業所は年々増加し続け現在は36カ所までになっており、地域の事業環境は変化し続けています。この変化の中で競争力を高め差別化をはかるために地域の支援ニーズの把握に努め、法人の経営資源を活用した特色のあるサービス支援の設計、放課後支援の対象年齢層拡大、提供するサービス支援内容に関するわかりやすく訴求性の高い情報発信の強化などに積極的に取り組み、専門性の高い知識と支援技術のさらなる向上をはかります。

3 学童保育の推進について

令和2年度から「勝原学童保育会」、令和3年度から「旭学童保育会」の運営を保護者会から引継いでいます。令和6年度も勝原、旭それぞれ第1、第2の2単位ずつ、計4単位での運営となります。就学児童数は減少していますが、学童保育のニーズは増加する一方です。勝原学童は2単位合計の登録児童79名、旭学童は合計114名で新年度を迎えます。旭小学校の余裕教室で運営している旭学童第2については、利用児童の増加に対応するために旭小学校と平塚市青少年課とも相談し、学童に隣接する会議室を放課後の時間帯や夏休みなどの学校休業日に一時的に利用する「タイムシェア」を導入します。児童の増加に合わせて職員の確保、特に有資格者(放課後児童支援員)の確保が必要になっています。進和学園の人材、プログラム、機能等で総合的に学童保育の運営をバックアップし、子どもたちが福祉のふれあいを通して、多様な価値観を認め合い尊重する「ともに生きる社会」の醸成を目指します。

4 意思決定支援について

利用者ご本人の意思が反映された生活を送ることを目指し、ご本人の意思の確認及び選好を推定するため、あさひホームがモデル事業で実践してきたヒアリングシートの活用を各施設に展開していきます。また、進和学園としまして「意思決定支援プロジェクト委員会」を設置しており、意思決定支援の推進と利用者ご本人が望む生活に向けての現状分析や課題の抽出、課題解決に向けた取り組みを行っていきます。

5 進和やましろホームの地域移行について

進和やましろホームは、行動障害が強い方や重度の知的障害の方を対象とした施設として活動をしています。個々の障害特性により集団生活が苦手な方も多く、お互いの生活が干渉しあうこともしばしばです。今回の報酬改定では意思決定支援や地域移行等、ご本人の生活を入所施設以外の場所も視野に入れていきます。

やましろホームとしては、法人で所有している戸建て住宅を活用し、日中活動や将来的なグループホームを想定した宿泊体験、様々な事情で帰宅が難しい方とご家族が過ごせる時間を提供する場所や余暇利用など、ご本人が施設以外の場所で生活する体験ができるような機会を作っていきます。ご本人の経験値を増やしながら意思決定支援を行い、法人と協議を行い関係機関と調整しながら、地域移行に向けた準備をしていきます。

6 多様なニーズに対応するグループホームについて

神奈川県単独補助事業として、国のグループホームの前身である通勤ホーム制度が昭和53年に創設されて以来、進和学園は取り組んできました。当初は一般就労が可能な中軽度の利用者ご本人が主な対象者でありましたが、現在は障がいの重い方、高齢の方などもグループホームを利用するケースが

増えてきております。理由は様々で、入所施設の定員枠が空かないため、少人数の暮らしを希望しているため、自立生活を体験するため、などがあります。よって多様化するニーズに対応できるようなグループホームが必要となります。休日・夜間体制の人員配置強化、身体的介護、健康管理、栄養管理の強化が求められます。グループホームの11か所の共同生活住居については、ご本人のニーズに合わせて住居ごとに特色のある支援体制を整備してまいります。特に入所、在宅からの体験利用を促進する体験型グループホームの必要性もあります。法人で取得した万田地区一戸建て住宅を体験型グループホームとしてやましろホームと協同で検討してまいります。

7 生活体系の推進について

- ① 高齢化、重度化に対し、健康管理に最大限配慮するとともに、医療機関と連携して各種検査をおこない、早期発見、早期治療に努めます。新型コロナウイルス感染症の扱いは、令和5年5月8日から2類相当から5類に変更されましたが、季節性インフルエンザと同様に、引き続き感染症予防に努めてまいります。また、一人ひとりに個別的な支援が必要なため、介助技術等の向上を引き続き図ってまいります。
- ② 地域生活支援の拠点機能の推進として、在宅の方、グループホーム、単身生活者等を支えるため、各入所施設を中心に、緊急受入の短期入所、日中一時支援、災害時の防災拠点、相談機能、専門性推進等の機能を強化してまいります。県市行政、他の法人、福祉関係団体等との連携もおこない、「人権」「福祉教育」「防災」等に取り組んでまいります。

8 作業体系について

- ① ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業様のご支援のもと発注を頂いて50年目になります。次世代の自動車開発が激化する中、このたび特段の対応でコストの見直しをしていただきましたが今後作業量は減少傾向となります。(株)研進との協同でEV化時代に通じるあらたな受注確保に積極的に取り組んでまいります。引き続き「顧客満足」「不具合ゼロ」の実現を目指してISO9001:2015年版の推進に努めます。
- ② 作業の確保、時代の変化に対応するため多角化を目指してまいります。自動車部品組立作業以外の作業収入も製パン作業の拡大等、新たな作業種への取り組みを踏まえ、売上目標を2億2千万円とします。
- ③ サンメッセの製パン事業は各種イベント等へ積極的に出店し、販路拡大を図ることにより工賃確保に努めます。食品衛生法の改正に伴いHACCPの考えを取り入れた衛生管理で原材料の受入れから製品の出荷に至る工程の管理を徹底し、安心・安全な製造を心がけ学校給食等の受注継続を推進してまいります。また、製菓や工芸作業においても安定した受注を目指し、工賃確保に努めます。
- ④ ルネッサンスの農産品加工事業は11年目を迎えました。HACCPにおける品質・衛生管理基準に基づき作業を実施していく中で、自社・受注加工ともに取引先件数は年々増加している状況にあります。本年度も、品質面における管理強化を図り、引き続き6次産業化ネットワークの活動を継続し、安全衛生管理を徹底、売上向上と工賃確保に努めてまいります。
- ⑤ 公共事業との取り組みの中でサンメッセが平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大、イベント参加に努めてまいります。サンメッセの「湘南みかんぱん」と、ルネッサンスの「トマトジュース」は、平塚市ふるさと納税返礼ギフトに登録され第62回全国推奨観光審査会においても推奨品に認定されました。食品加工の取り組みで応募したノウフクアワード2021ではチャレンジ賞を受賞しています。また「パンのフェス2024春」のAwardにおいては新商品「やまと豚キングドック」を販売し受賞は逃しましたが、開店早々大変好評でした。「湘南みかんぱん」、「トマトジュース」は令和5年4月より令和10年3月までの期間、再び湘南ひらつか名産品として認定されました。このたび「トマトジュース」が第64回全国推奨観光審査会において農林水産大臣賞を受賞しました。今後も地域、関係団体と

の更なる連携強化に努めてまいります。

- ⑥施設外就労は継続して、地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業請負、平塚市からの受託している高麗山公園清掃、(株)ゴバイミドリ様(いのちの森づくり作業請負)については継続して取り組んでまいります。
- ⑦在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用はしまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となります。今後も多角化に向け制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めてまいります。
- ⑧いのちの森づくりは(株)研進と協同で、学校の森づくりをはじめ、湘南国際村等の植樹祭に参加します。引き続き浜松植樹プロジェクト、豊島区には苗木を出荷します。令和6年度の計画は植樹、出荷で30,000本を目指します。また他法人施設との連携(どんぐりブラザーズ)にも努めます。
- ⑨ルネッサンスは湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進します。優先調達等の受注量も増加傾向にあり更なる協力体制の推進に努めてまいります。
- ⑩「ともしびショップ湘南平」は、障がいのある方の就労と社会参加の場としての役割を推進し多様な社会資源の活用を図ります。「サンメッセしんわ」と一体的に運営して7年目を迎えます。1階の喫茶部門は「湘南リトルツリー」としてホットケーキをはじめ、進和学園の自主生産品を食材として活用するメニューをはじめ新しいメニューを考案します。販売部門は陶芸品や工芸品等、楽しいアート商品を揃え、2階は展示販売の他、活動スペースエリアとして各種イベント、レンタルスペースとしても幅広く活用していきます。地域交流の拠点として、安心・安全な運営に努めてまいります。
- ⑪平塚市役所の1階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は本年7月で丸10年を迎えます。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、平塚市の協力のもと本年も進和学園が、その事務局を担当します。平塚市観光協会にも入会し運営の理解促進と販売促進に努めてまいります。また生産事業推進会議パフォーマンス部会のFM湘南ナパサ78.3MHzのラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜20:00~20:30)に利用者ご本人が中心に参画しております。FM湘南ナパサ局も番組への協力、理解を示していただいています。本年も福祉現場からの情報発信、福祉啓発、ご本人の個性あふれるパフォーマンス、とびっきりレインボーズ(器楽同好会)のオリジナル曲・ライブ音源などを発信して「ともに生きる」メッセージを、ラジオを通して伝えてまいります。

令和6年3月21日
社会福祉法人 進和学園